

## 大震災に思う

東日本大震災で、被害を受けられた方々、そのご家族の方々、また避難生活を余儀なくされている方々に、心よりお見舞い申し上げます。

このような未曾有の災害に、突然見舞われ、また原発などの二次被害も起こって、日本はかつて経験したことのないような危機的状況に陥っています。16年前に、阪神・淡路大震災に遭遇した私たちに、今、何ができるのかと日々考えています。

特に、災害弱者と呼ばれる高齢の方、医療を必要としている方、さまざまな障害のある方など、低年齢の子どもたちが災害にあった時に、いち早く生命の安全が確保できるような備えやシステム、訓練は日頃から重要であることは言うまでもありません。阪神・淡路大震災の時、私は市の職員をしており、教育委員会にいて避難所(学校)を担当していたので、避難している方々がいかに困難な状況におかれていたのかを目のあたりにしてきました。その後、議員になってからも災害弱者の問題をライフワークの1つと考え、取り組んできました。つい最近の2010年12月議会でも、災害弱者対策について、避難所の整備状況・高齢者や障害者などを含めた避難訓練への取組み・避難所で生活できない方(医療ケアを必要とする方や発達障害の方等)への対応についての質問をいたしました。こんなに早く、このように大きな災害が訪れようとは思っていませんでした。今回の災害で、改めて防災システムの構築と災害後の人々の心身のケアや復興計画の重要性を再認識しました。

これからも、市民の皆さんひとりひとりの声に耳を傾け、人にはやさしく、災害には強いまちづくりを進めていきたいと、切に考えています。

最後になりましたが、被災地の一日も早い復興を、心からお祈りしています。

2011年 3月

宝塚市議会議員 井上きよし